

アーティストインタビュー

塩谷 哲 SATORU SHIONOYA

ピアニスト、作・編曲家として幅広いフィールドに足跡を残し続けている“SALT”こと塩谷 哲さんが2025年2月8日に小金井 宮地楽器ホールでコンサートを行います。2017年7月以来の登場となる今回のステージではふたりのヴァイオリニスト、ヴィオラ奏者、チェリスト、ベーシストからなる〈ソルト・ストリングス〉を率いたアンサンブルをジャンルレスなスタイルで披露して下さる予定。演目を思案中の塩谷さんにお話を伺いました。



ピアニストが、弦楽器に憧れて作る音楽

「昔から弦楽器の音が大好きで」と語り始めた塩谷 哲さん。「物心が付くか付かないかの頃、姉が通うバレエ教室で耳にしたチャイコフスキーの音楽が原体験です。当時は作曲者や曲名など分からずにオーケストラの響きや弦楽器の音色に惹かれたんですが、以来、ずっと憧れています。ピアノとは別の表現力もあり、それがまた羨ましくてね。もちろん、ピアノは素晴らしい楽器ですよ、だから弾いているんですけど(笑)」

5歳から10代前半まで武蔵小金井の宮地楽器・音楽教室でエレクトーンを習い、自作曲も弾いていたという塩谷さんは、東京藝術大学音楽学部作曲科で学んでいた時代にヴァイオリンとピアノのためのソナタやチェロとピアノ用の曲も書いていました。

「ストリングス・アレンジの仕事に依頼されると嬉しくてね。譜面に書いた弦の音が実際に鳴った時の感動というのは、ピアノを弾いた時の喜びとはまた別の種類でして。作・編曲家の心をザワザワさせるというか、あれは一体、何なのでしょう？」

そんな塩谷さんが〈with ソルト・ストリングス コンサート〉と題した演奏活動を行うようになったのは2011年。今回は2020年11月以来の開催となります。

「ピアニストが“弦楽器のサウンドに憧れて作る音楽”をお届けします。確かに譜面はありますが、その時に起きたことを受け止め反応し、リアルなコミュニケーションを目指しているので、ある意味、ジャズの発想に近いです。響き合う楽器の生音を聴きながら刻々と変化して行くことを楽しみたい。それにはお客さまのリアクションやヴァイブレーションも関係するので、会場にお越しになった皆さんと一緒に音楽を作っていきたいと思っています」



披露される楽曲は塩谷さんのオリジナル曲や代表曲を中心にカバー曲も織り交ぜた多彩なラインナップになりそうです。

無数に連なる音を、お客さまと一緒に感じる時間

「ソロ・デビュー30周年の節目だった2023年に、東京フィルハーモニー交響楽団とコンサートを行いました。そのコンサート用に4楽章形式の新作『エレジー』を書き下ろしたのですが、この交響曲を(全楽章かは未定)〈ソルト・ストリングス〉ヴァージョン

でお届けできればと考えています。実は第3楽章の《ロンド》は元々〈ソルト・ストリングス〉の為に書いたという経緯もありますしね。それと、これまで発表してきたアルバム収録曲の中にもストリングスが鳴っているイメージで書いた曲が結構あるので、それを具現化できる時間が本当に楽しみなんですよ」

弦楽四重奏にウッドベースが加わった5人編成というのも〈ソルト・ストリングス〉の特徴のひとつ。

「ベースが入ることでグルーブが生まれますし、チェリストも自由に演奏できるという利点があります。但し、演者がジャズ・ベーシストの井上陽介であることが重要です。彼は大阪音楽大学作曲科出身でクラシックの素養もあり、非常にフレキシブルな音楽家。20代からの付き合いですが、その頃から僕の弾くことを全部、理解してくれているように感じていました。トップ・ヴァイオリンの藤堂昌彦くんも長い付き合いになりましたね。僕が6年間、音楽を担当していた『コレナンデ商会』(NHK Eテレ)をはじめ、色々なお仕事で演奏をお願いしています」

響きに定評あるホールで堪能する塩谷ワールド。オーディエンスは生演奏ならではの感動を味わえるはず。

「例えば、海岸で聞く波の音と録音した波の音は聞こえ方が違いますよね。それは何故か、現地だとあちこちで鳴っている無数の連なる音をカラダで感じているからです。そういう現象は人間に何か訴えるものがあると思うのですが、演奏というも“現象”を作り出していると言えます。ピアノでドミソを弾いた時も実は違う音がたくさん鳴っていますし、弾き方で無限に変化する。ストリングスはその最たるもので、それをお客さまと一緒に感じながらコンサートを作ることができるというのは本当に贅沢で幸せなことだと思います」

【EXCITING STAGE】

塩谷 哲 with ソルト・ストリングス コンサート 2025

2025年2月8日(土) 16:00開演 大ホール

全席指定 一般 4,500円 U25席 2,000円

こがねいメンバーズ 一般 4,000円

塩谷 哲 (ピアノ)
藤堂昌彦、徳永友美 (ヴァイオリン)
金 孝珍 (ヴィオラ) 稲本有彩 (チェロ)
井上陽介 (ベース)

